

表1 迅速診断キットの感度・特異度（国内メーカーから公表された数値）

試薬	対照検査	検体	A 型		B 型	
			感度 (%)	特異度 (%)	感度 (%)	特異度 (%)
クイックナビ TM -Flu2 デンカ生研 (カセット型イムノクロマトグラフィー法)	ウイルス分離	鼻腔拭い液	94.8	94.8	97.8	96.8
		鼻腔吸引液	95.3	99.0	90.8	98.8
		咽頭拭い液	97.0	98.4	96.4	94.7
イムノエース [®] Flu タウンズ (カセット型イムノクロマトグラフィー法)	ウイルス分離	鼻腔拭い液	94.3	95.4	100	98.7
		鼻腔吸引液	95.1	98.4	100	100
		咽頭拭い液	87.3	94.8	91.5	99.1
		鼻汁鼻かみ液	84.1	96.9	96.2	98.1
アルソニック [®] Flu アルプレッサファーマ (カセット型イムノクロマトグラフィー法)	ウイルス分離	鼻腔拭い液	90.8	98.1	88.8	100
		鼻腔吸引液	93.8	99.1	92.7	99.2
		咽頭拭い液	95.5	97.5	82.5	97.9
		鼻汁鼻かみ液	93.9	78.2	90.2	99.3
ラビッドテスタ [®] FLU・NEO 積水メディカル (カセット型イムノクロマトグラフィー法)	ウイルス分離	鼻腔拭い液	96.1	98.5	90.7	99.7
		鼻腔吸引液	98.1	98.4	95.6	99.6
		咽頭拭い液	89.2	98.9	85.4	100
		鼻汁鼻かみ液	95.6	100	93.2	100
ラビッドテスタ [®] カラー FLU スティック 積水メディカル (ディップスティック型イムノクロマトグラフィー法)	ウイルス分離	鼻腔拭い液	90.7	98.0	94.1	100
		鼻腔吸引液	87.4	99.4	87.1	99.0
		咽頭拭い液	92.6	98.2	87.8	99.3
		鼻汁鼻かみ液	89.9	94.2	81.6	99.6
クイックチェイサー [®] FluA, B ミスホメディー (カセット型イムノクロマトグラフィー法)	ウイルス分離	鼻腔拭い液	92.3	90.1	86.4	92.8
		鼻腔吸引液	98.3	93.5	89.1	96.9
		咽頭拭い液	64.3	97.0	71.4	98.1
クイックチェイサー [®] Auto FluA, B ミスホメディー 銀増幅イムノクロマトグラフィー法 (測定機器使用のみ)	ウイルス分離	鼻腔拭い液	100	100	100	100
		鼻腔吸引液	100	100	96.5	100
		咽頭拭い液	98.8	100	93.1	99.2
		鼻汁鼻かみ液	92.3	100	95.1	98.6
プロラスト [®] Flu One LSI メディエンス カード型イムノクロマトグラフィー法	定性 PCR	鼻腔拭い液	98.7	100	99.0	100
		鼻腔吸引液	98.6	97.0	93.3	97.0
		鼻汁鼻かみ液	94.6	100	88.6	100

・陰性不一致検体（偽陽性）における RT-PCR による確認結果は省略。

（各社 HP あるいは各試薬の添付文書資料より作成）

表4 インフルエンザ迅速診断キット感度の時間的推移

出典	三田村 (2010)	三田村 (2010)	三田村 (2015)				三田村 (2012)	
	A型	A型	A型		B型		A型	
時期・亜型	2009年 H1pdm09 流行時	2010年 H1pdm09 流行時	2013~14年 H3とH1pdm09混合 流行時		2013~14年 B型流行時		2009~2010年 H1pdm09流行時	
検体	鼻腔拭い液	鼻腔拭い液	鼻腔吸引液				鼻腔拭い液	
対照検査	ウイルス 分離・リアル タイム RT-PCR	ウイルス 分離	ウイルス分離				ウイルス分離と リアルタイムPCR	
迅速診断キット	クイック ナビ™Flu (%)	プロラス ト®Flu (%)	クイック ナビ™Flu (%)	ファイン ビジョン Influenza (%)	クイック ナビ™Flu (%)	ファイン ビジョン Influenza (%)	エスブラ イン (%)	銀増幅イ ムノクロ マトグラ フィー法 (%)
発病から の経過時 間ごとの 感度	~6時間 6~12時間 12~24時間 24~48時間 全体	67 54.5 83 90.9 80.7	88.5 91.3 91.3 96.2 89.7	88.5 95.7 95 100 93.9	84.6 85.7 93.8 85.7 85	84.6 100 93.8 100 91.7	69.2 75.0 76.0 90.0 76.1	84.6 75.0 76.0 90.0 82.1

(三田村敬子, 2017¹⁾より引用改変)

銀増幅は発症6時間で80%の感度ですが、それ以降では他の検査とあまり変わりません
本院では鼻腔拭い液をおこなっています。。

表1 hMPV 迅速抗原検査キットの感度・特異度

製品名	感度 (%)		特異度 (%)		対照検査
	鼻腔吸引	鼻腔拭い	鼻腔吸引	鼻腔拭い	
プライムチェック® hMPV	N. D.	85.3	N. D.	95.2	RT-PCR
プロラスト hMPV	91.5	73.7	97.1	93.8	RT-PCR
チェック hMPV	95.8 [*]	82.3	93.0 [*]	93.8	RT-PCR
イムノエース® hMPV	87.1	92.0	100	100	RT-PCR
クイックチェイサー® hMPV	100	100	96.3	95.3	ICG
	95.2	N. D.	100	N. D	リアルタイム RT-PCR

^{*}リアルタイム RT-PCR

RT-PCR : reverse transcription polymerase chain reaction, ICG : immunochromatography, N. D. : not done

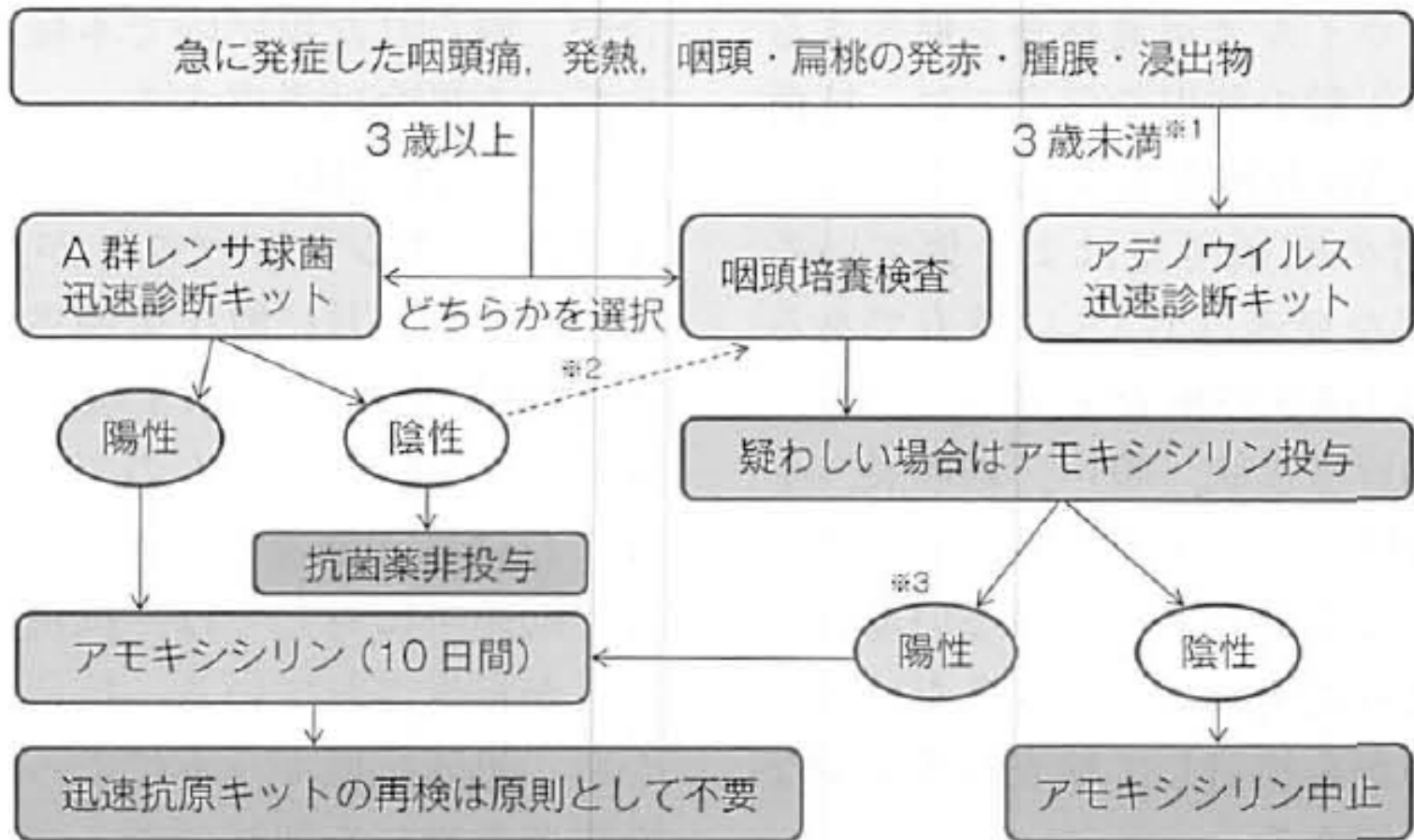


図 A 群レンサ球菌による咽頭・扁桃炎の検査

3歳未満ではアデノを考える。

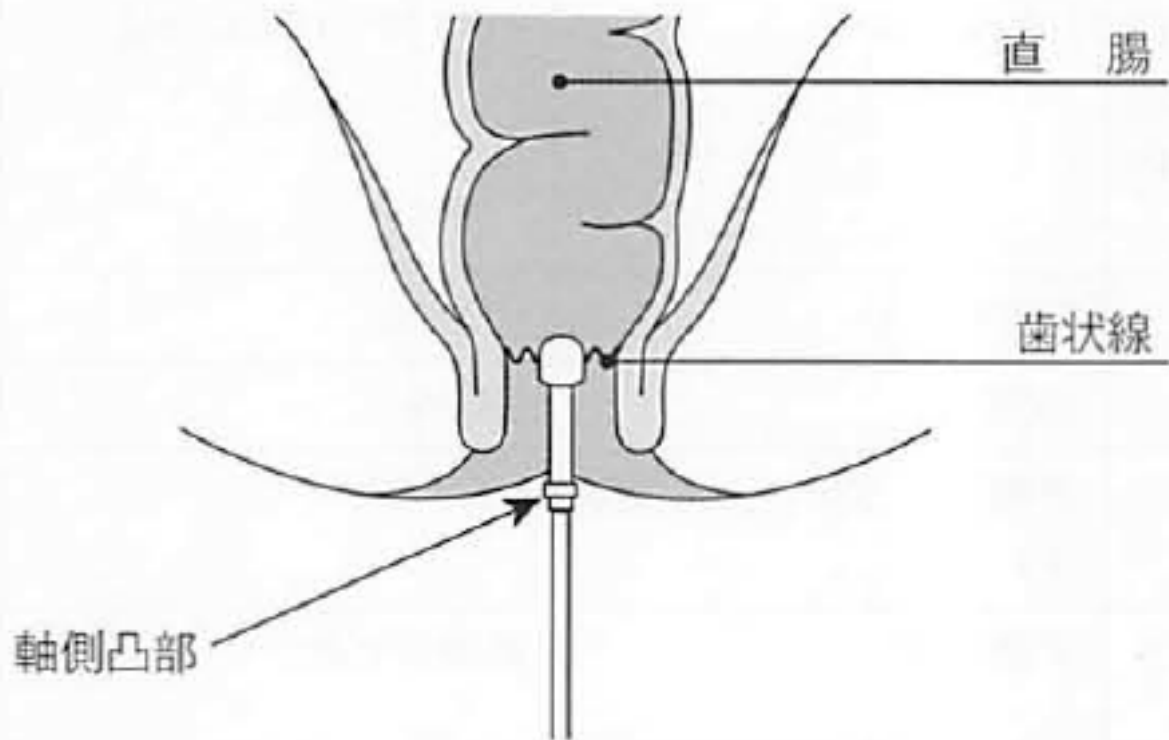
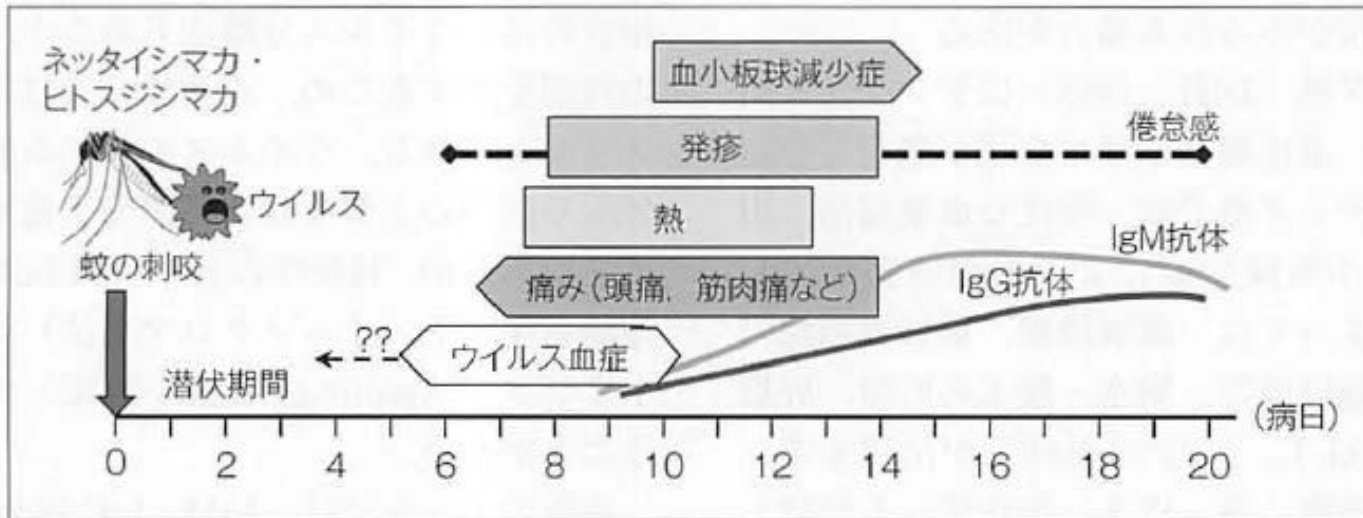


図4 直腸便採取法

(クイックチェイサー® Rota/Adeno 添付文書より引用)

ロタ検査では綿棒を傷つけないように歯状線まで挿入

a. 臨床症状



b. 実験室診断法の信頼性

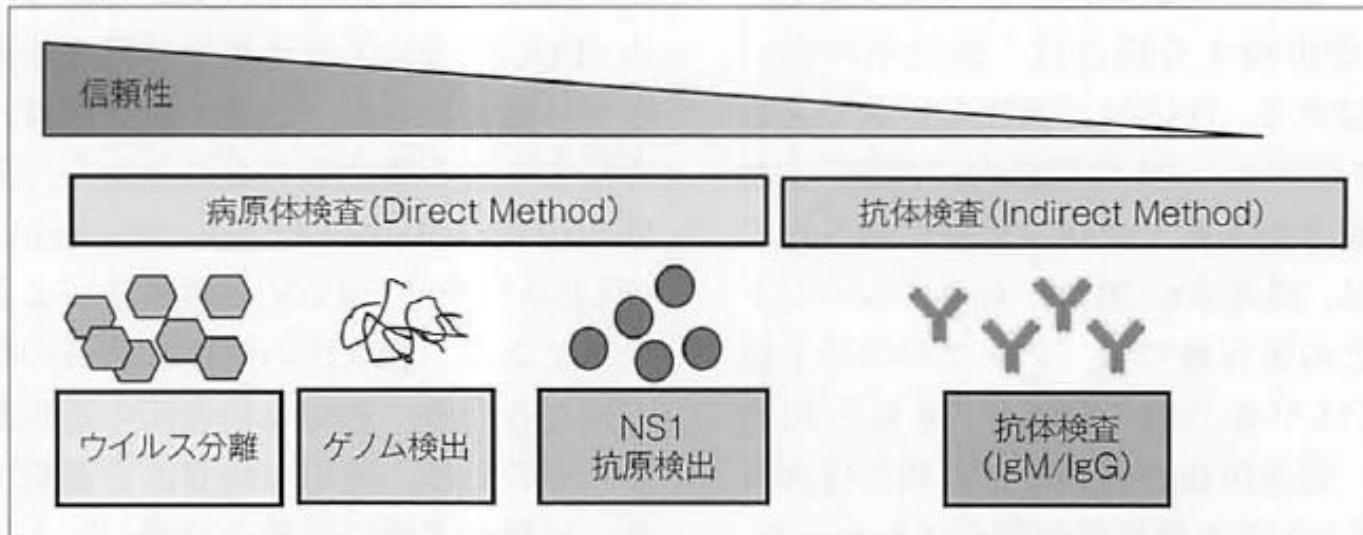


図1 デング熱・デング出血熱臨床症状および抗体の検出可能な期間 (a) 各実験室の診断法における信頼性 (b)

デング熱の臨床症状と検査としてはNS1が一般的でしょうか？

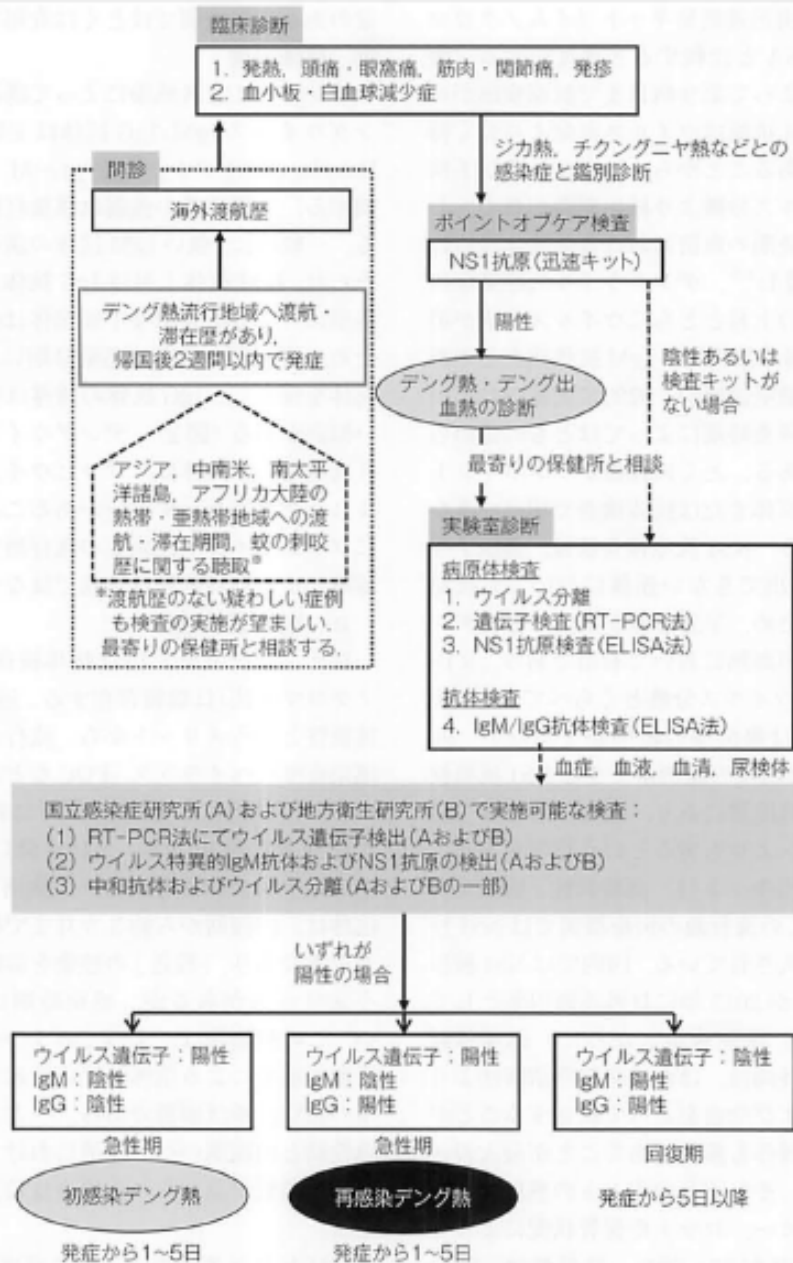


図2 デング熱・デング出血熱の診断手順

表1 デング熱・デング出血熱の診断法における感度・特異性

診断法	感度 (%)	特異性 (%)	メリット
1. ウイルス分離	38~52	100	確定診断, 高特異性, 血清型鑑別診断, ウイルス性状解析
2. 遺伝子検査 (RT-PCR 法)	67~100 ^{*1}	100	確定診断, 高特異性, 高感度, 血清型鑑別診断
3. NS1 抗原検査 (ELISA 法)	51~80	98~100	高感度, 高特異性
NS1 抗原迅速キット	19~97	53~100	迅速, 簡便
4. IgM 抗体検査 (ELISA 法)	85~100 ^{*2}	100 ^{*2}	高感度, 高特異性
IgM 抗体迅速キット	6~82 ^{*2}	61~100 ^{*2}	迅速, 簡便
5. IgM 抗体/NS1 抗原迅速キット (IgM/NS1 キット併用)	82~100	68~93b	迅速, 簡便, 高感度
6. IgG 抗体検査 (ELISA 法)	96~100 ^{*2}	91~100 ^{*2}	高感度, 高特異性
IgG 抗体迅速キット	49~89 ^{*2}	67~99 ^{*2}	迅速, 簡便
7. 中和試験	- ^{*3}	-	中和抗体価測定, 血清型鑑別診断が可能な場合もある

^{*1}有熱期における感度, ^{*2}回復期における感度, ^{*3}該当なし

表2 デング熱・デング出血熱の診断法の特徴

診断法	診断結果	検査時間	検査材料	検出可能な期間 (病日)	必要な設備・施設	費用
1. ウイルス分離	確定	3~14日	血清, 全血	1~7病日	BSL2細胞培養施設	+++
2. 遺伝子検査 (RT-PCR法)	確定	1日	血清, 全血, 尿, 唾液, 組織	1~10病日	BSL2細胞培養施設, 遺伝子解析機器	+++
3. NS1抗原検査 (ELISA法)	確定	約3時間	血清, 全血	1~22病日	ELISA装置	++
NS1抗原迅速キット		約10分		1~9病日	ポイントオブケア	
4. IgM抗体検査 (ELISA法)	不確定*	3時間~2日	血清, 全血	3-90病日	ELISA装置	+
IgM抗体迅速キット		約10分			ポイントオブケア	
5. IgG抗体検査 (ELISA法)	不確定*	3時間~2日	血清, 全血	5病日以降	ELISA装置	+
IgG抗体迅速キット		約10分			ポイントオブケア	
6. 中和試験 (中和抗価の4倍上昇)	確定	3~10日	血清	5病日以降	BSL2細胞培養施設	+++

*ワンポイントによる確定診断は困難であり, 回復期の血清またはペア血清において抗体の4倍以上の上昇の確認が必要.

表1 小児科領域におけるクラミジア感染症

	<i>C. trachomatis</i>	<i>C. pneumoniae</i>	<i>C. psittaci</i>
感染経路	母子感染, 性行為感染	飛沫感染(ヒト-ヒト)	人獣共通感染
集団感染	なし(?)	あり	あり
臨床症状	封入体結膜炎 乳児肺炎 性感染症	肺炎 気管支炎 喘息発作との関連	オウム病
治療	マクロライド系抗菌薬	マクロライド系抗菌薬	テトラサイクリン系抗菌薬 (8歳以上) マクロライド系抗菌薬